

廃校になる小学校の活用

平成 29 年 3 月末で廃校となってしまう小学校があります。建物はまだまだ使えます。小学校が移転してしまった後の活用について、地元の方々との意見交換会をファシリテートさせていただきました。

☆有識者の会と地元の意見交換会

有識者の会と地元の意見交換会で情報をキャッチボールしながら進めていきました。有識者の方々の広い視野からのご意見と、地元の方々の小学校に寄せる熱い思いをお互いに交換しながら進めました。今まで、コミュニティの中心だった小学校が移転すると、コミュニティの求心ポイントも移動します。防災の拠点も移動できるのか、避難所としての機能を残したいが、コミュニティの中心が移ってしまった後で機能するのかなどの 10 年後、20 年後を見越した検討が求められます。

☆小学校跡地の活用事例

意見交換していくなかで、先進事例がいくつか出てきました。小学校を取り壊して建て直す中で、定期借地にしたり、土地を売却したりする例もあります。まだ使える校舎をそのまま活用するにも、マネジメント組織に任せる例や地元のコミュニティが組織をつくってマネジメントする例、企業に貸し出す例など、さまざまな方法で小学校を活用していました。

防災についても協定を行政と結んでいる事例や地元結んでいる事例など、その地域の事情を反映させたさまざまな形態になっていました。



☆都心部にも増える廃校

都心部では、若い家族が周辺地域に移住する現象があります。愛知県でも独身のときは会社の近くに住み、家族ができ家を建てるとなると周辺の地域へ移動するという例もたくさんあります。都心部から子どもが減っていってしまいます。そして、公立小学校が廃校になっていくのです。

ただ、最近は駅の近くに住むということが増えてきました。小学校統廃合の風は弱まるのでしょうか？

☆地域の核となってきた小学校。統廃合で移動するとコミュニティはどうなっていくのでしょうか？人口減少に伴う大きな課題となりそうです。